

美深町年表（抜粋）

西暦 (年代)	おもな出来事	西暦 (年代)	おもな出来事
1857 (安政4)	・松浦武四郎、天塩川を遡り天塩国上川郡、中川郡を探検する。		・2線の駅通所を9線に移設。
1888 (明治21)	・内田澁、柳本道義ら植民地撰定測量のため来村調査する。	1909 (明治42)	・美深尋常小学校5線分教場（辺溪小）開校。
1891 (明治24)	・「北海道植民地撰定報文」が刊行され、この中で初めてピウカ原野オンネナイ原野が紹介される。	1910 (明治43)	・9線役場敷地内に隔離病舎設置。 ・美深衛生組合設立。 ・天塩農事試作場を9線に設置。 ・天塩線を宗谷線と呼称。 ・美深、恩根内駅舎完成。
1895 (明治28)	・この頃玉井捨三郎、獣皮買、鮭漁に入地する。	1911 (明治44)	・紋穂内駅舎設置。 ・下名寄私設消防組結成（ 本町消防の起こり ）。 ・宗谷線名寄～恩根内間開通。 ・恩根内郵便局設置。 ・市街地区画の制定。
1899 (明治32)	・平喜三郎当時に初めて開拓の鍬を下ろす。 （美深町開基）	1912 (明治45)	・ニウブ駅通所設置（ニウブ25線）。 ・中川村分離、下名寄村戸長役場。 ・美深尋常高等小学校14線（斑溪）特別教授場開校。 ・宗谷線恩根内～音威子府間開通。 ・天塩川沿岸に薄荷の栽培始まる。
1900 (明治33)	・仮定県道、恩根内7線まで開通。 ・区割り設定実施される。 ・山梨磐作入植。 ・長野県人宮原代太郎武信組を組織して入村。	1913 (大正2)	・恩根内第2尋常小学校所属25線特別教授場（楠小）開校。 ・北海道木材株式会社美深工場操業開始、自家発電を始める（ 本町初の電気使用 ）。 ・仁宇布に至る道路全通。
1901 (明治34)	・天塩國中川郡を上川支庁に編入、剣淵外3カ村戸長役場所属となる。 （上川郡剣淵外三カ村中川郡各村戸長役場） ・徳島県人笠原新吉、恩根内地区に入地。 ・恩根内16線に官設渡船場設置。 ・美深2線と17線に官設渡船場、美深2線にピウカ駅通所設置される。	1914 (大正3)	・5線に日本製麻会社美深工場設立。 ・恩根内4線（紋穂内）に官設渡船場設置。 ・美深駅で公衆電報取り扱い開始。
1902 (明治35)	・上名寄郵便局を設置、恩根内まで管轄する。 ・オンネナイ駅通所設置。 ・大久保農場で水田の試作実施。 ・近藤農場内に初めて簡易教育所設置。 ・本町初の里道美深5線、11線道路完成する。 ・恩根内に至る仮定県道竣工。 ・大凶作	1915 (大正4)	・北海2級町村体制を実施、初代村長に立石文雄。 ・第1回村議会議員選挙執行（定員12名）。 ・村内20区に分けて部長制度をとる（組長より引継）。
1903 (明治36)	・美深7線に美深簡易教育所正式開所。 ・恩根内16線簡易教育所設置。 ・5線に美深郵便局を設置。		
1904 (明治37)	・旧厚生小学校、恩根内8線簡易教育所として開校。 ・村医として名寄より深山竹松を招じ診療所を設ける。		
1905 (明治38)	・美深簡易教育所を8線西3番地に移転新築。 ・下名寄巡査駐在所を美深5線に設置。 （本町警察の初め）		
1906 (明治39)	・中川郡に中川村設置、上名寄外3村戸長役場所属。 ・中川郡は下名寄村、中川村の2村になる。 ・オグルマナイ部落に岩井農場開く。	1916 (大正5)	・恩根内第1尋常小学校所属恩根内11線（オテレコッペ）特別教授場開校。 ・農事試作場で農業気象観測始まる。 ・北海木材工場自家発電により市街地電化なる。
1907 (明治40)	・上名寄外3カ村戸長役場から分離、下名寄外1村戸長役場を美深5線に開庁。 ・竹内善兵衛、福島団体長としてニウブに来住。 ・ 下名寄村戸数 1,125戸 5,252人	1917 (大正6)	・農産物検査所設置。 ・恩根内第2尋常小学校所属辺別毛内特別教授場（清水小）開校。 ・美深尋常高等小学校所属雄木禽特別教授場開校。
1908 (明治41)	・恩根内18線渡船場（小車）私設。 ・美深郵便局で電信事務（電報取扱）開始。 ・ウルベン簡易教育所開所（玉川小の前身）。 ・美深二三四青年会発足。 （美深青年会の初め） ・俣野大治郎、美深9線で俣野医院を開業。 （本町初の個人病院）	1918 (大正7)	・恩根内第2尋常小学校所属御車内特別教授場開校。 ・小笠原一族南米に移住。 ・下名寄村誌刊行。

